

# 令和7年度第2回 福津市下水道事業運営審議会

令和7年7月22日

# 目次

1. 前回審議会までの経緯と今後の予定
2. 前回審議会 質問事項への回答
3. 今回審議会の目的
4. 下水道使用料体系案について

# 1. 前回審議会までの経緯と今後の予定

## ○令和5年度

### 経営戦略の改定と公表

- ・現在は一般会計からの繰入金に依存した経営状況
- ・今後も重要なインフラである下水道施設の維持のためには、定期的な設備更新が必要
- ・将来的に繰入金に依存しない自立した経営を目指し、令和6年度以降に適正な使用料の検証を行う

## ○令和6年度・令和7年度

### 下水道使用料体系検証業務

### 下水道事業運営審議会

- ・検証の結果、使用料で資本費が回収できていないこと、起債償還金の負担に伴う資金不足を確認
- 使用料改定及び資本費平準化債の発行で資金不足を解消する必要性があると判断
- ・使用料の改定率は全体で約18.3%とする

## ○今後の予定

### ○令和7年度

#### 7月 下水道事業運営審議会（今回）

- ・下水道使用料体系の検討、単価の決定

#### 秋頃 下水道事業運営審議会

- ・「適正な下水道使用料の在り方について」答申

#### 3月 福津市議会定例会

- ・福津市下水道条例の改正案を上程

### ○令和8年度 周知期間

### ○令和9年4月～ 下水道使用料改定

※その後も定期的（3～5年を目安）に、使用料の検証や経営戦略の見直しを行う

## 2. 前回審議会 質問事項への回答

前回改定（H30.10～）時における水量の変動について（値上げによる使用控えがあったか）知りたい

総水量で比較した場合、下水道使用者数の増加によって水量も増加していくため、水量区分ごとに1件あたりの水量平均を算出し、年度ごとに比較しました。

前年度と比較し、1%以上の違いがある区分には**減少：青**、**増加：赤**で色分けしています。各水量区分において年度ごとの差はごくわずかで、減少傾向は見られません。

**結論：料金改定後において、水量が大幅に減少した兆候はなく、使用控えを示す顕著な傾向は見られません。**

年度/ 水量区分	0~8	9~15	16~20	21~25	26~30	31~40	41~50	51~100	101~200	201~500	501~1000	1001 ~5000	5001~
H29	4.72	12.00	18.34	22.76	27.71	34.27	44.45	65.29	141.24	309.30	733.01	1762.85	5573.55
H30	4.78	12.05	18.33	22.76	27.71	34.34	44.52	65.18	136.97	319.38	731.73	1758.74	5608.00
H31(R1)	4.86	12.13	18.33	22.75	27.69	34.31	44.43	65.27	138.34	324.47	735.27	1700.55	5684.82

## 2. 前回審議会 質問事項への回答

前回改定時以降の電気代の推移が知りたい

福間・津屋崎浄化センターの電気料金を年度で比較しました。

**結論：1kwhあたりの電気料金は20.7%上昇しており、事業経費への影響は大きいです。  
下水道事業の維持コストとして、電気料金の上昇が料金改定の要因の一つとなり得ます。**

### 【浄化センター動力費】

(税抜)

	H30	R6	差	伸率
使用量(kwh)	3,639,705	3,720,040	80,335	2.2%
料金(円)	58,317,150	71,982,645	13,665,495	23.4%
1kwhあたり料金	16.022	19.350	3.328	20.7%

使用量には大差ないが、  
料金は大幅に上昇している。

### 【参考】

(税抜)

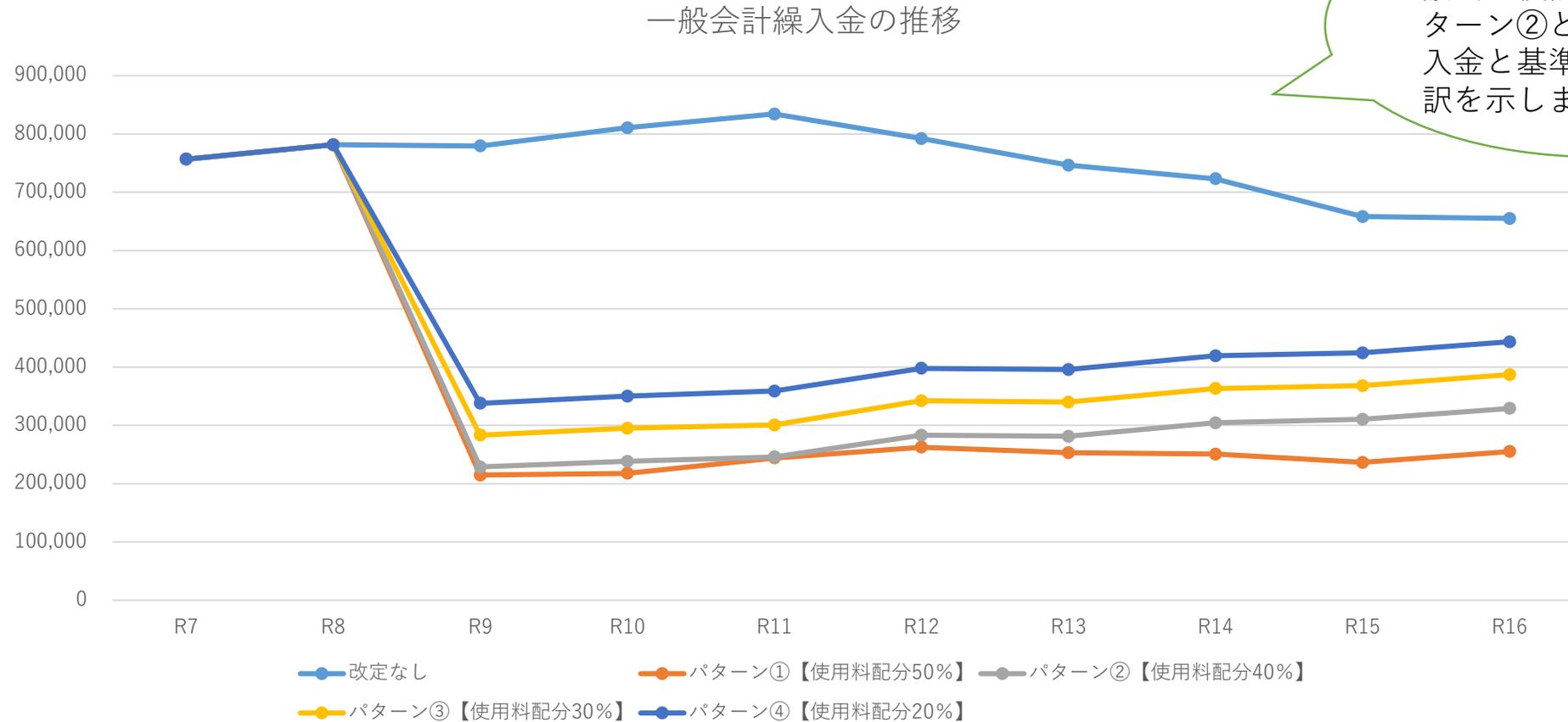
	H30	R6	差	伸率
電工単価※(円/人)	19,000	24,100	5,100	26.8%

※浄化センターの維持管理委託料の算定などに使用する労務単価

## 2. 前回審議会 質問事項への回答

繰入金の推移グラフを基準内と基準外で分けてほしい。

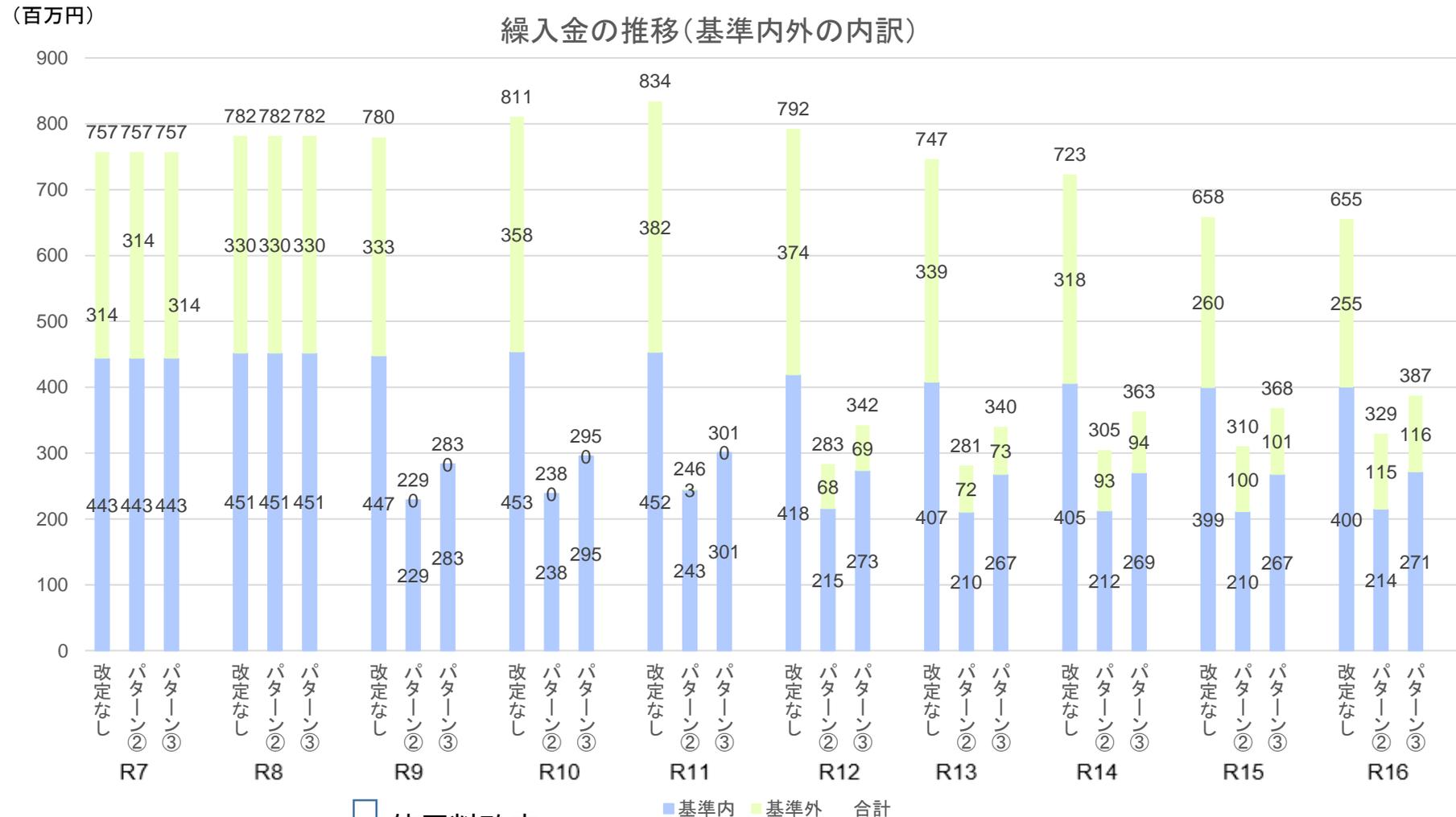
### 前回審議会で示したグラフ



次のスライドで、前回審議会で検討に残ったパターン②と③の基準内繰入金と基準外繰入金の内訳を示します。

## 2. 前回審議会 質問事項への回答

繰入金の推移グラフを基準内と基準外で分けてほしい。



使用料改定

## 2. 前回審議会 質問事項回答

下水道事業経営の目標がどこにあるかを示してほしい。

### ・ 下水道事業経営の最終目標

地方公営企業の原則である独立採算の実現。

### ・ 下水道事業経営の中長期目標

公費負担の割合を減らし、独立採算に近づける。

→ 中長期の目標を達成するために公費負担の割合をどこまで減らすか？

- ① 財政計画期間の10年間で繰入金比率を同規模他団体と同水準程度とする。
- ② 企業債残高対事業規模比率についても同規模他団体と同水準程度とする。

福津市公共下水道事業経営戦略に記載。

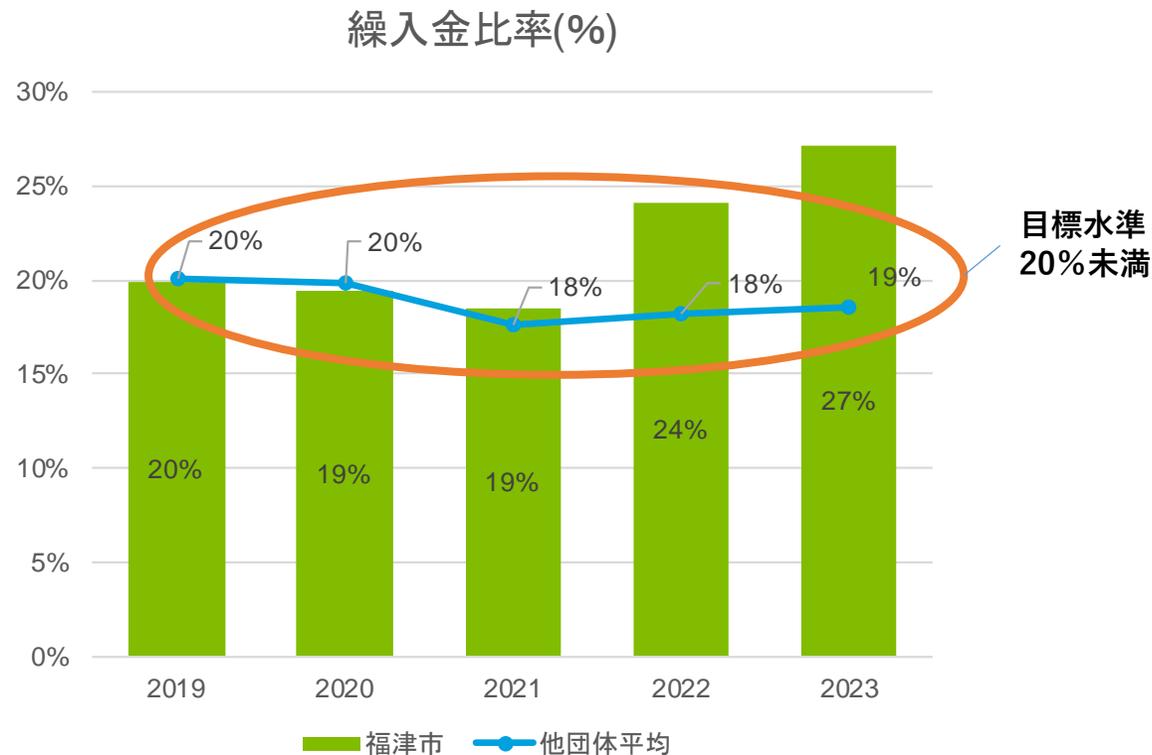
※繰入金と企業債は資金調達手段であり、一方が減少すれば他方が増加することになるため、両指標を同時に注視していく必要がある。

## 2. 前回審議会 質問事項回答

### 同規模他団体水準の確認

#### 繰入金比率の比較(低い程良好)

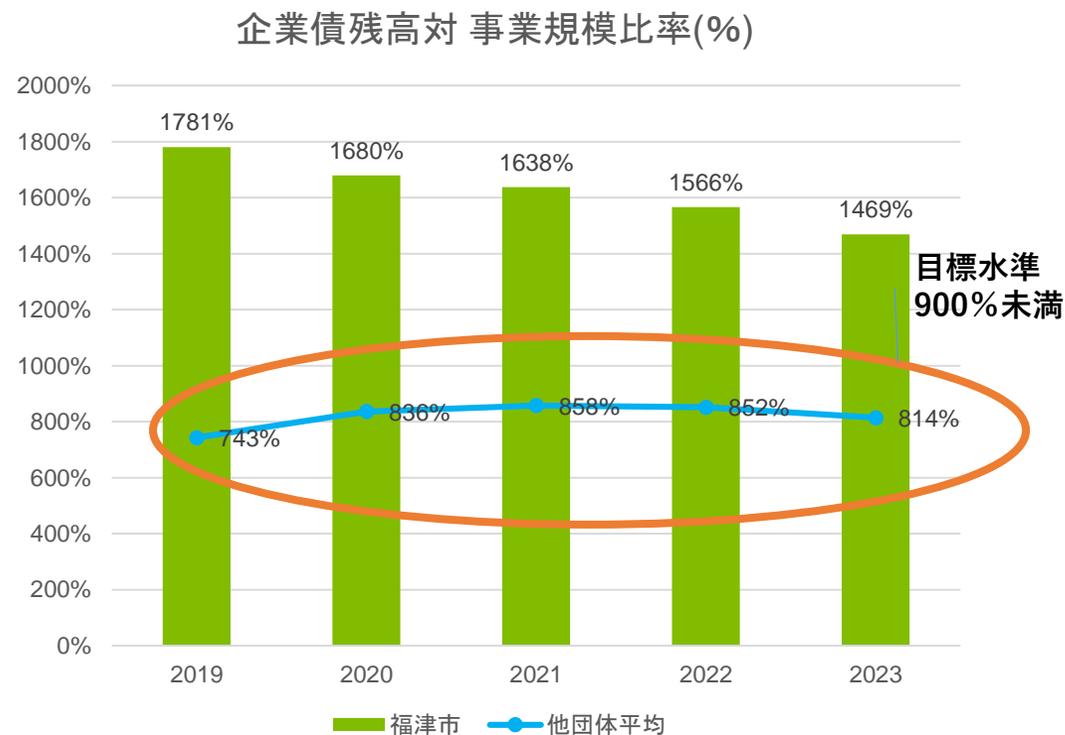
総収入に占める繰入金の割合で、繰入金への依存度を表し、低い方が良いとされています。



※(収益的収入繰入金(雨水処理負担金除く)+資本的収入繰入金)÷(総収入(収益的収入)+資本的収入)×100

#### 企業債残高対 事業規模比率の比較(低い程良好)

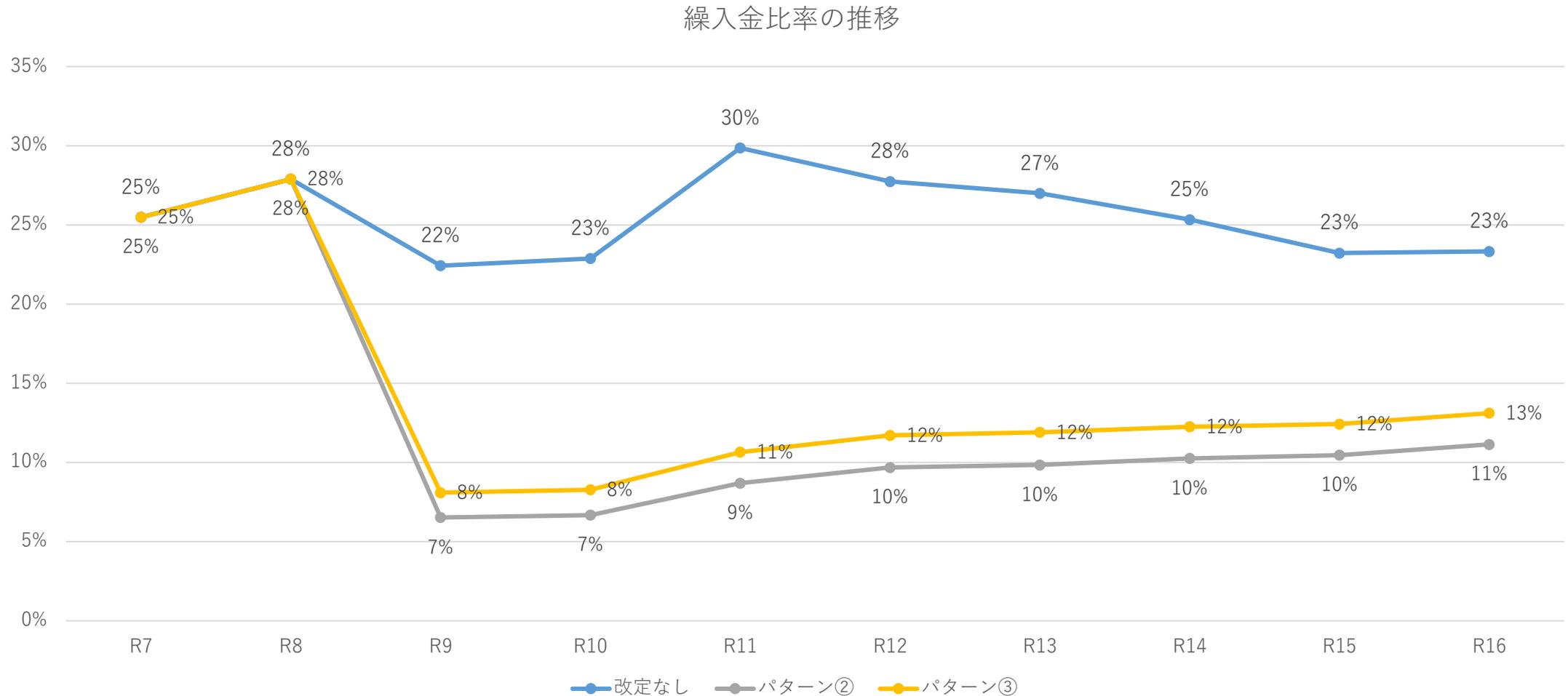
料金収入に対する企業債残高の割合で、企業債残高の規模を表し、低い方が良いとされています。



※(企業債(地方債)現在高一一般会計負担額)÷(営業収益-受託工事収益-雨水処理負担金)×100

## 2. 前回審議会 質問事項回答

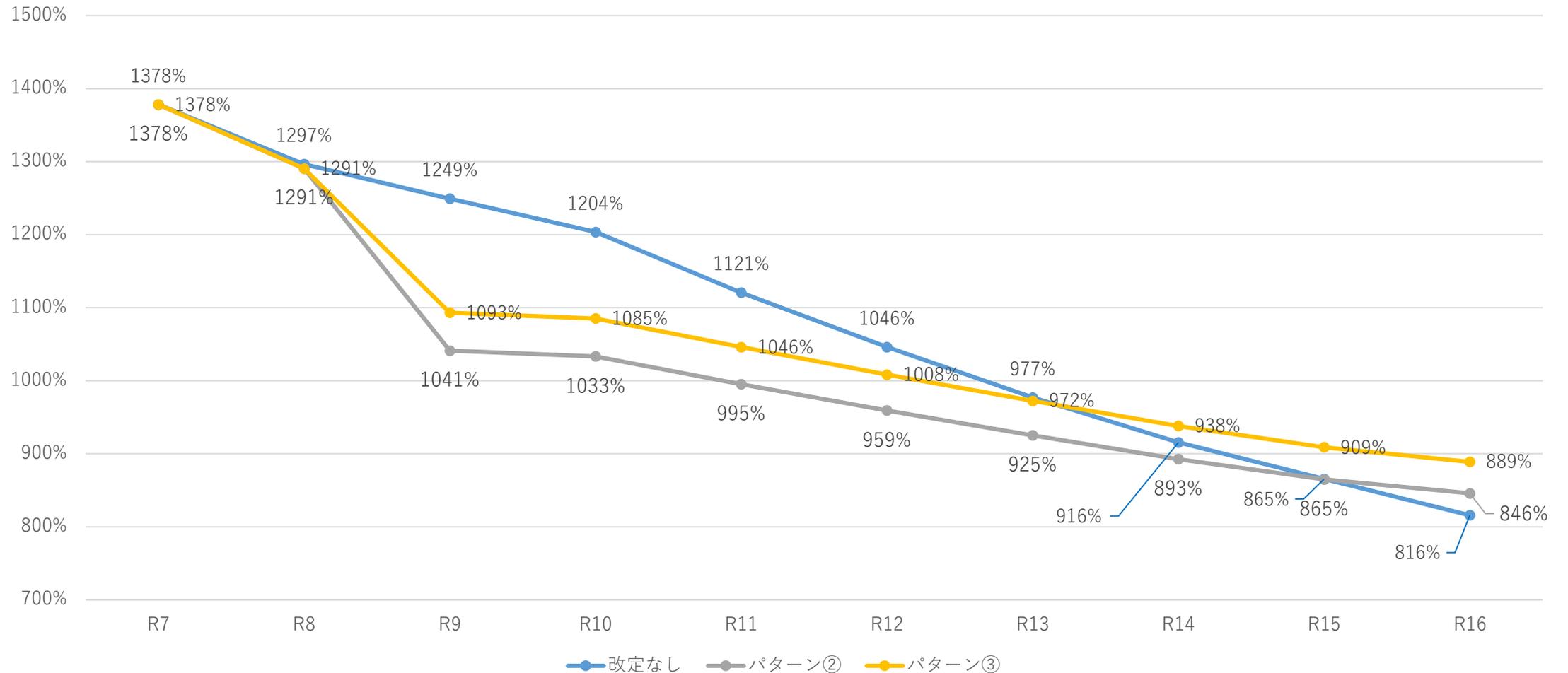
### 繰入金比率の10年間推移



## 2. 前回審議会 質問事項回答

### 企業債残高対事業規模比率の10年間推移

企業債残高対事業規模比率の推移



## 2. 前回審議会 質問事項回答

### 市の目標に対する10年後の結果予測

パターン	繰入金比率	企業債残高対事業規模比率
目標値	20%未満	900%未満
②	11% 達成	846% 達成
③	13% 達成	889% 達成

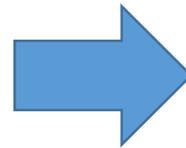
### 3. 今回審議会の目的

## 下水道使用料体系

= 基本使用料と従量使用料単価の設定

現行使用料体系（税抜）

基本使用料	使用水量	従量使用料
780	1～10m <sup>3</sup>	65
	11～20m <sup>3</sup>	153
	21～30m <sup>3</sup>	160
	31～50m <sup>3</sup>	200
	51～100m <sup>3</sup>	230
	101m <sup>3</sup> ～	260



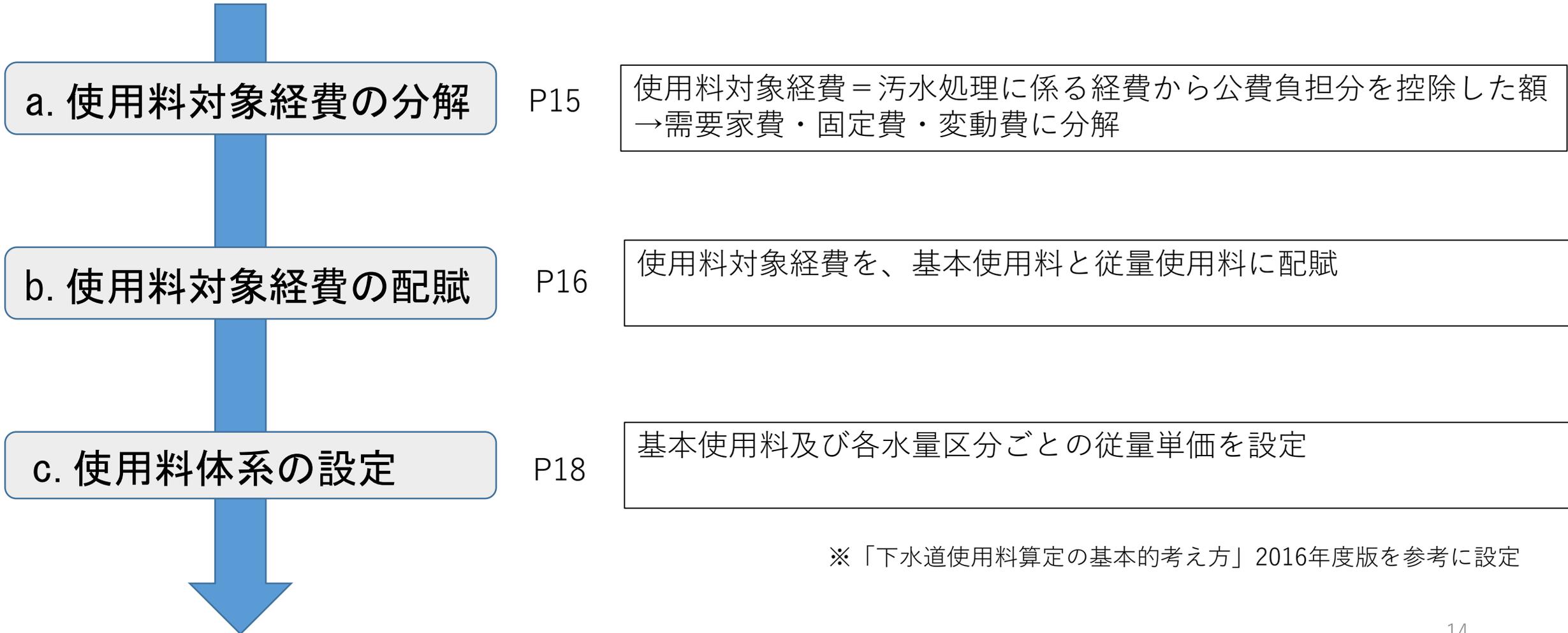
改定後使用料体系（税抜）

基本使用料	使用水量	従量使用料
??	1～10m <sup>3</sup>	??
	11～20m <sup>3</sup>	??
	21～30m <sup>3</sup>	??
	31～50m <sup>3</sup>	??
	51～100m <sup>3</sup>	??
	101m <sup>3</sup> ～	??

※水量区分は現行体系を維持

### 3. 今回審議会の目的

#### 下水道使用料体系設定までのフロー

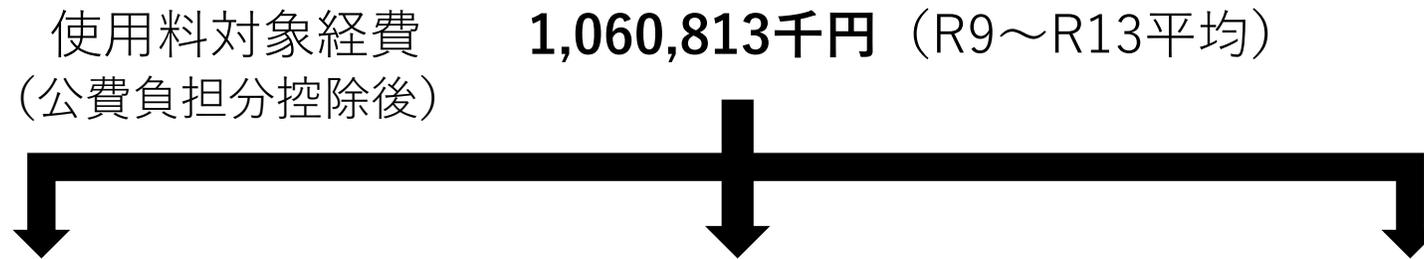


※「下水道使用料算定の基本的考え方」2016年度版を参考に設定

## 4. 下水道使用料体系案について

### a. 使用料対象経費の分解

使用料算定期間（R9～R13）の使用料対象経費を以下のように分解



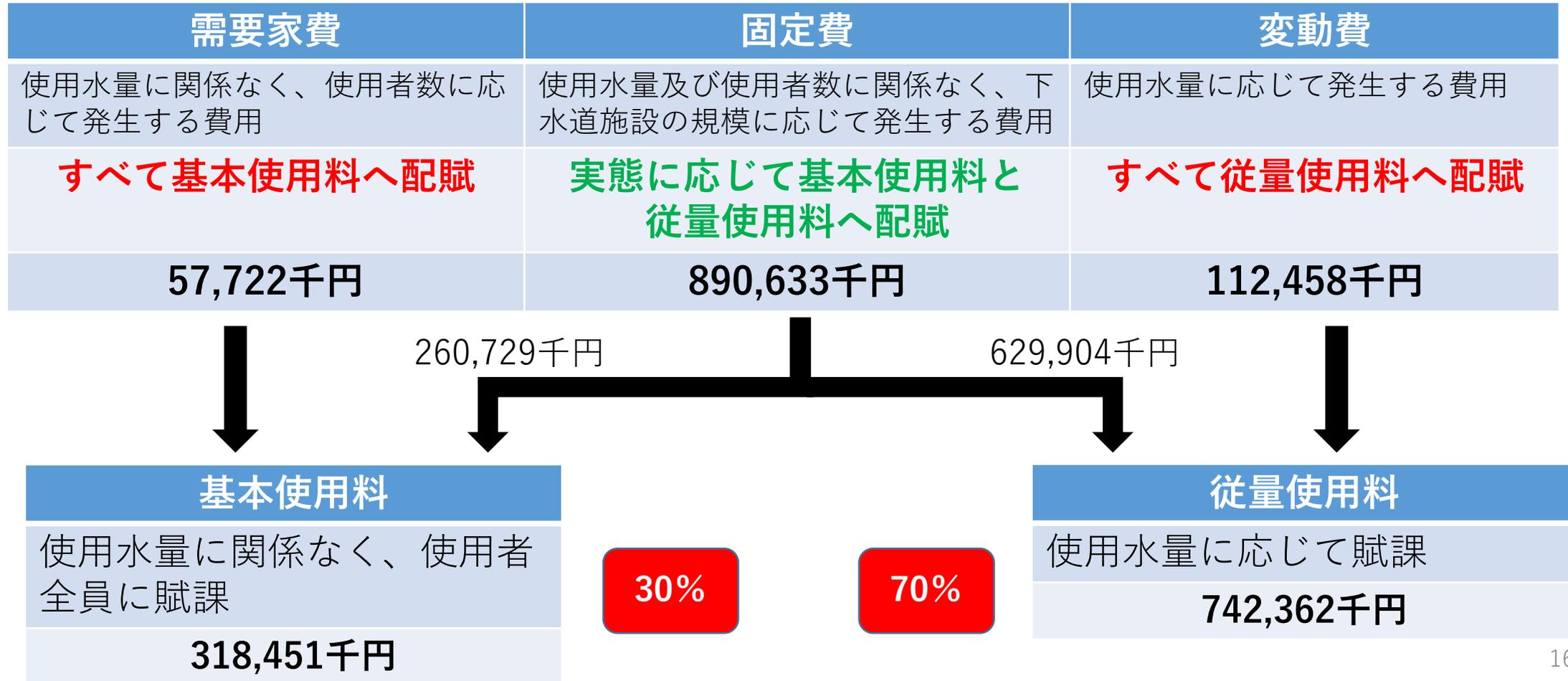
需要家費	固定費	変動費
使用水量に関係なく、 <b>使用者数に応じて発生する費用</b>	使用水量及び使用者数に関係なく、 <b>下水道施設の規模に応じて発生する費用</b>	<b>使用水量に応じて発生する費用</b>
検針費用、使用料賦課徴収費用など	人件費、減価償却費など	薬品費、動力費など
<b>57,722千円</b>	<b>890,633千円</b>	<b>112,458千円</b>

# 4. 下水道使用料体系案について

## b. 使用料対象経費の配賦

分解した使用料対象経費を、基本使用料と従量使用料に配賦する

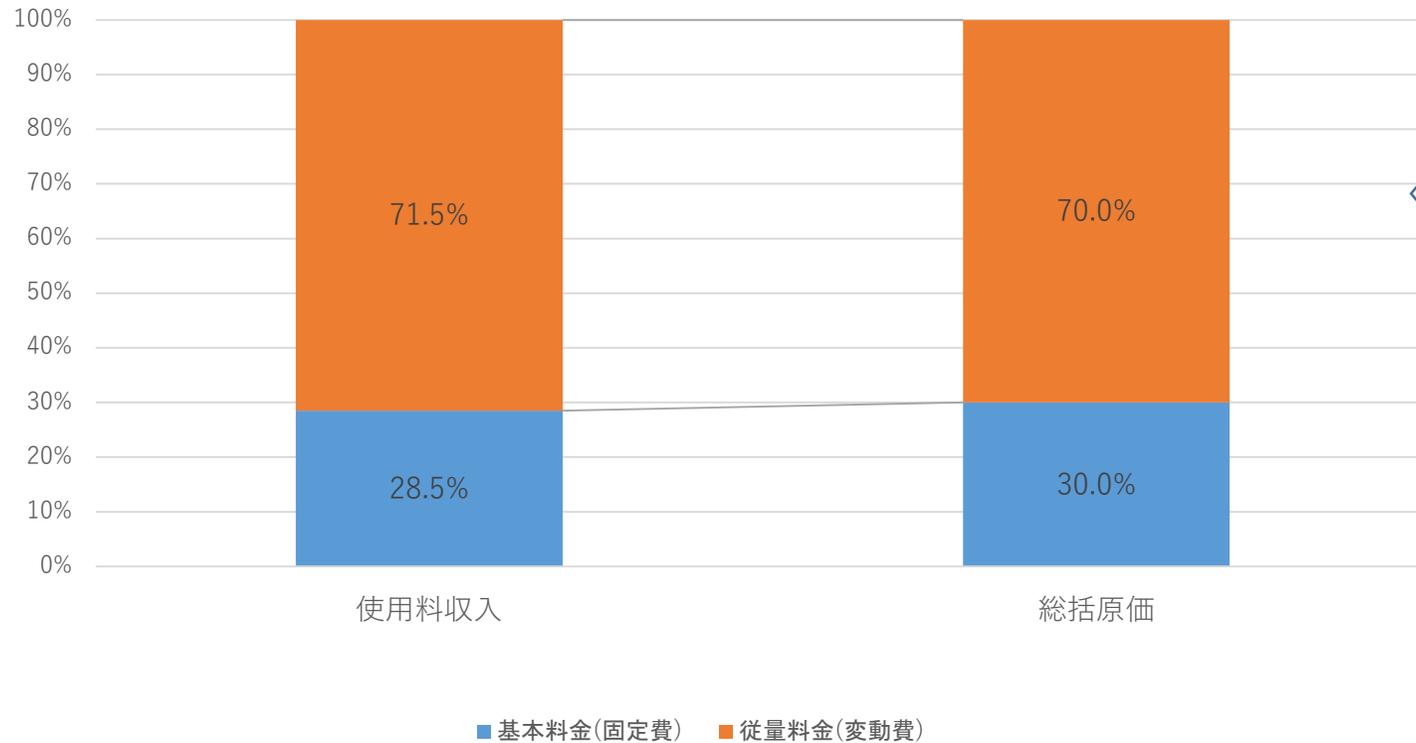
固定費は基本使用料へ配賦することが適当であるが、下水道事業の特性として固定費の割合が極めて大きいことから、一部を基本使用料へ、残りを従量使用料へ配賦することが妥当である。  
 (「下水道使用料算定の基本的な考え方」より)



# 4. 下水道使用料体系案について

## b. 使用料対象経費の配賦

使用料収入と原価の固定変動割合



(R6年度)  
使用料総収入に  
おける基本使用  
料と従量使用料  
の割合は、  
**28.5 : 71.5**

汚水原価からみ  
ると、基本使用  
料と従量使用料  
の割合は、  
**30 : 70**  
↓  
原則値

基本使用料と従量使用料の現状割合は、原則値と比べて若干のギャップがある状態

## 4. 下水道使用料体系案について

### c.使用料体系の設定

原則割合値に基づいて配賦した場合、基本使用料の目安は何円か？

必要な料金収入（R9～R13平均） 1,073,168,272円

●目標とする基本料金と従量料金の割合  
基本料金 30%  
従量料金 70%

●調定件数（R9～R13平均） 331,894件

●基本料金単価（税抜）

$$\begin{array}{rcccccc} \text{必要となる使用料収入} & & \text{基本料金割合} & & \text{調定件数} & & \text{基本使用料単価} \\ 1,073,168,272 & \times & 30\% & \div & 331,894 & = & 970 \end{array}$$

## 4. 下水道使用料体系案について

### c.使用料体系の設定

○必要な使用料収入額 (R9～R13平均)

1,073,168千円

○使用料改定率 18.3%

No.	手法 (いずれも使用料改定率18.3%を 目標として設定)	基本使用料 (税抜)	従量使用料	総収入における 基本：従量
①	✓ 基本使用料及び従量使用料を一律増加 (18.3%)	923円 (+143円)	+18.3%	29 : 71
②	✓ 基本使用料割合を原則値 (30%) とする ✓ 従量使用料は一律増加	970円 (+190円)	+16%	30 : 70
③	✓ 基本使用料割合を原則値 (30%) とする ✓ ②は少量利用者の負担率が高くなるため、 少量利用者の従量使用料を軽減	970円 (+190円)	0～10m <sup>3</sup> : +9% 11m <sup>3</sup> ～ : +18～19%	30 : 70

## 4. 下水道使用料体系案について

### c.使用料体系の設定 パターン①

考え方
基本使用料、従量使用料ともに18.3%の改定とする。
メリット
どの水量区分の使用者にも公平な改定率となる
デメリット
総収入における基本使用料と従量使用料の割合は29：71となる見込みで、原則値に満たないが、ほぼ影響のない範囲

	想定値	目標値	判定
総収入	1,074,311千円	1,073,168千円	○
うち、基本使用料	306,388千円	-	-
うち、従量使用料	767,993千円	-	-
割合	29：71	30：70	△

基本使用料	使用水量	従量使用料改定前	従量使用料改定後	上昇率
780 ↓ 923  18.3 %	1～10m <sup>3</sup>	65	77	18.3%
	11～20m <sup>3</sup>	153	181	18.3%
	21～30m <sup>3</sup>	160	189	18.3%
	31～50m <sup>3</sup>	200	237	18.3%
	51～100m <sup>3</sup>	230	272	18.3%
	101m <sup>3</sup> ～	260	308	18.3%

※単価は税抜表示

## 4. 下水道使用料体系案について

### c.使用料体系の設定 パターン①料金早見表

(税抜)

下水一般口径		パターン①			下水一般口径		パターン①		
▼使用水量	現行料金	改定案(円)	差額(円)	改定率	▼使用水量	現行料金	改定案(円)	差額(円)	改定率
0	780	923	143	18.3%	17	2,501	2,960	459	18.4%
1	845	1,000	155	18.3%	18	2,654	3,141	487	18.3%
2	910	1,077	167	18.4%	19	2,807	3,322	515	18.3%
3	975	1,154	179	18.4%	20	2,960	3,503	543	18.3%
4	1,040	1,231	191	18.4%	30	4,560	5,393	833	18.3%
5	1,105	1,308	203	18.4%	40	6,560	7,763	1,203	18.3%
6	1,170	1,385	215	18.4%	50	8,560	10,133	1,573	18.4%
7	1,235	1,462	227	18.4%	60	10,860	12,853	1,993	18.4%
8	1,300	1,539	239	18.4%	100	20,060	23,733	3,673	18.3%
9	1,365	1,616	251	18.4%	200	46,060	54,533	8,473	18.4%
10	1,430	1,693	263	18.4%	500	124,060	146,933	22,873	18.4%
11	1,583	1,874	291	18.4%	1,000	254,060	300,933	46,873	18.4%
12	1,736	2,055	319	18.4%	1,500	384,060	454,933	70,873	18.5%
13	1,889	2,236	347	18.4%	2,000	514,060	608,933	94,873	18.5%
14	2,042	2,417	375	18.4%	3,000	774,060	916,933	142,873	18.5%
15	2,195	2,598	403	18.4%	4,000	1,034,060	1,224,933	190,873	18.5%
16	2,348	2,779	431	18.4%	5,000	1,294,060	1,532,933	238,873	18.5%

どの水量区分も  
公平な改定率

## 4. 下水道使用料体系案について

### c.使用料体系の設定 パターン②

#### 考え方

基本使用料は、原則割合から算出した970円とする  
従量使用料は原則一律改定とする

#### メリット

総収入における基本使用料と従量使用料の割合が原則値となる  
基本使用料の割合が上がることにより、経営の安定性に寄与する

#### デメリット

基本使用料が24.4%上昇するため、少量使用者の負担割合が他の水量区分と比較して高くなる

	想定値	目標値	判定
総収入	1,074,213千円	1,073,168千円	○
うち、基本使用料	321,937千円	-	-
うち、従量使用料	752,276千円	-	-
割合	30 : 70	30 : 70	○

基本使用料	使用水量	従量使用料改定前	従量使用料改定後	上昇率
780 ↓ 970  24.4 %	1~10m <sup>3</sup>	65	75	16%
	11~20m <sup>3</sup>	153	178	16%
	21~30m <sup>3</sup>	160	185	16%
	31~50m <sup>3</sup>	200	232	16%
	51~100m <sup>3</sup>	230	267	16%
	101m <sup>3</sup> ~	260	302	16%

※単価は税抜表示

## 4. 下水道使用料体系案について

### c.使用料体系の設定 パターン②料金早見表

(税抜)

下水一般口径		パターン②			下水一般口径		パターン②		
▼使用水量	現行料金	改定案(円)	差額(円)	改定率	▼使用水量	現行料金	改定案(円)	差額(円)	改定率
0	780	970	190	24.4%	17	2,501	2,966	465	18.6%
1	845	1,045	200	23.7%	18	2,654	3,144	490	18.5%
2	910	1,120	210	23.1%	19	2,807	3,322	515	18.3%
3	975	1,195	220	22.6%	20	2,960	3,500	540	18.2%
4	1,040	1,270	230	22.1%	30	4,560	5,350	790	17.3%
5	1,105	1,345	240	21.7%	40	6,560	7,670	1,110	16.9%
6	1,170	1,420	250	21.4%	50	8,560	9,990	1,430	16.7%
7	1,235	1,495	260	21.1%	60	10,860	12,660	1,800	16.6%
8	1,300	1,570	270	20.8%	100	20,060	23,340	3,280	16.4%
9	1,365	1,645	280	20.5%	200	46,060	53,540	7,480	16.2%
10	1,430	1,720	290	20.3%	500	124,060	144,140	20,080	16.2%
11	1,583	1,898	315	19.9%	1,000	254,060	295,140	41,080	16.2%
12	1,736	2,076	340	19.6%	1,500	384,060	446,140	62,080	16.2%
13	1,889	2,254	365	19.3%	2,000	514,060	597,140	83,080	16.2%
14	2,042	2,432	390	19.1%	3,000	774,060	899,140	125,080	16.2%
15	2,195	2,610	415	18.9%	4,000	1,034,060	1,201,140	167,080	16.2%
16	2,348	2,788	440	18.7%	5,000	1,294,060	1,503,140	209,080	16.2%

基本料金の時点で  
24.4%の改定となる  
→少量利用者の改定率  
が高く、大口利用者の  
改定率が低い

## 4. 下水道使用料体系案について

### c.使用料体系の設定 パターン③

考え方	
基本使用料は、原則割合から算出した970円とする 従量使用料は少量利用者に配慮した傾斜とする。	
メリット	
総収入における基本使用料と従量使用料の割合が原則値となる 基本使用料の割合が上がることにより、経営の安定性につながる ②と比較すると、各水量区分の改定率が平準化される	
デメリット	
基本使用料が24.4%上昇するため、少量使用者の負担割合が他の水量区分と比較して高くなる	

	想定値	目標値	判定
総収入	1,074,044千円	1,073,168千円	○
うち、基本使用料	321,937千円	-	-
うち、従量使用料	752,107千円	-	-
割合	30 : 70	30 : 70	○

基本使用料	使用水量	従量使用料改定前	従量使用料改定後	上昇率
780 ↓ 970  24.4 %	1~10m <sup>3</sup>	65	71	9%
	11~20m <sup>3</sup>	153	182	19%
	21~30m <sup>3</sup>	160	190	19%
	31~50m <sup>3</sup>	200	235	18%
	51~100m <sup>3</sup>	230	271	18%
	101m <sup>3</sup> ~	260	307	18%

※単価は税抜表示

# 4. 下水道使用料体系案について

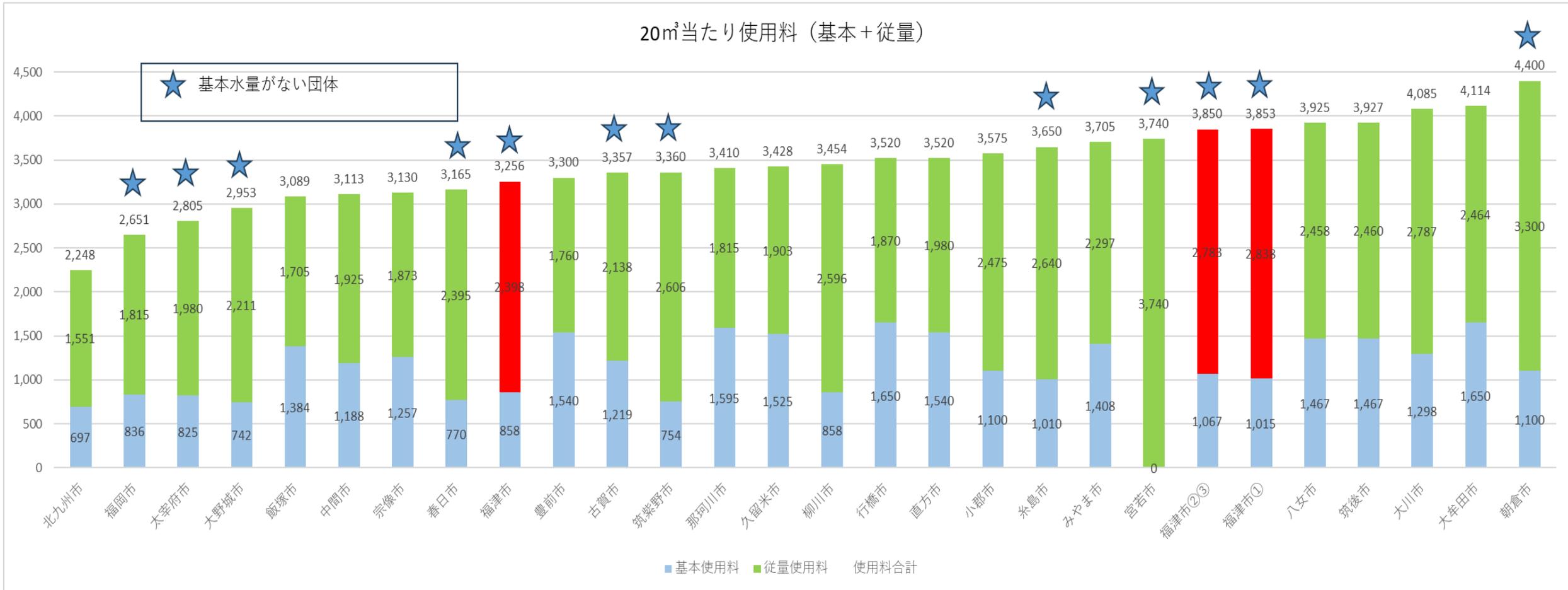
## c.使用料体系の設定 パターン③料金早見表 (税抜)

下水一般口径		パターン③			下水一般口径		パターン③		
▼使用水量	現行料金	改定案(円)	差額(円)	改定率	▼使用水量	現行料金	改定案(円)	差額(円)	改定率
0	780	970	190	24.4%	17	2,501	2,954	453	18.1%
1	845	1,041	196	23.2%	18	2,654	3,136	482	18.2%
2	910	1,112	202	22.2%	19	2,807	3,318	511	18.2%
3	975	1,183	208	21.3%	20	2,960	3,500	540	18.2%
4	1,040	1,254	214	20.6%	30	4,560	5,400	840	18.4%
5	1,105	1,325	220	19.9%	40	6,560	7,750	1,190	18.1%
6	1,170	1,396	226	19.3%	50	8,560	10,100	1,540	18.0%
7	1,235	1,467	232	18.8%	60	10,860	12,810	1,950	18.0%
8	1,300	1,538	238	18.3%	100	20,060	23,650	3,590	17.9%
9	1,365	1,609	244	17.9%	200	46,060	54,350	8,290	18.0%
10	1,430	1,680	250	17.5%	500	124,060	146,450	22,390	18.0%
11	1,583	1,862	279	17.6%	1,000	254,060	299,950	45,890	18.1%
12	1,736	2,044	308	17.7%	1,500	384,060	453,450	69,390	18.1%
13	1,889	2,226	337	17.8%	2,000	514,060	606,950	92,890	18.1%
14	2,042	2,408	366	17.9%	3,000	774,060	913,950	139,890	18.1%
15	2,195	2,590	395	18.0%	4,000	1,034,060	1,220,950	186,890	18.1%
16	2,348	2,772	424	18.1%	5,000	1,294,060	1,527,950	233,890	18.1%

基本料金の時点で  
24.4%の改定となる  
→少量利用者の改定  
率が若干高くなる

# 4. 下水道使用料体系案について

# 県内他団体比較



# 4. 下水道使用料体系案について

## パターンまとめ

下水一般口径		パターン①			パターン②			パターン③		
▼使用水量	現行料金	改定案(円)	差額(円)	改定率	改定案(円)	差額(円)	改定率	改定案(円)	差額(円)	改定率
0	780	923	143	18.3%	970	190	24.4%	970	190	24.4%
1	845	1,000	155	18.3%	1,045	200	23.7%	1,041	196	23.2%
2	910	1,077	167	18.4%	1,120	210	23.1%	1,112	202	22.2%
3	975	1,154	179	18.4%	1,195	220	22.6%	1,183	208	21.3%
4	1,040	1,231	191	18.4%	1,270	230	22.1%	1,254	214	20.6%
5	1,105	1,308	203	18.4%	1,345	240	21.7%	1,325	220	19.9%
6	1,170	1,385	215	18.4%	1,420	250	21.4%	1,396	226	19.3%
7	1,235	1,462	227	18.4%	1,495	260	21.1%	1,467	232	18.8%
8	1,300	1,539	239	18.4%	1,570	270	20.8%	1,538	238	18.3%
9	1,365	1,616	251	18.4%	1,645	280	20.5%	1,609	244	17.9%
10	1,430	1,693	263	18.4%	1,720	290	20.3%	1,680	250	17.5%
15	2,195	2,598	403	18.4%	2,610	415	18.9%	2,590	395	18.0%
20	2,960	3,503	543	18.3%	3,500	540	18.2%	3,500	540	18.2%
30	4,560	5,393	833	18.3%	5,350	790	17.3%	5,400	840	18.4%
50	8,560	10,133	1,573	18.4%	9,990	1,430	16.7%	10,100	1,540	18.0%
100	20,060	23,733	3,673	18.3%	23,340	3,280	16.4%	23,650	3,590	17.9%
500	124,060	146,933	22,873	18.4%	144,140	20,080	16.2%	146,450	22,390	18.0%
1,000	254,060	300,933	46,873	18.4%	295,140	41,080	16.2%	299,950	45,890	18.1%
2,000	514,060	608,933	94,873	18.5%	597,140	83,080	16.2%	606,950	92,890	18.1%
5,000	1,294,060	1,532,933	238,873	18.5%	1,503,140	209,080	16.2%	1,527,950	233,890	18.1%